

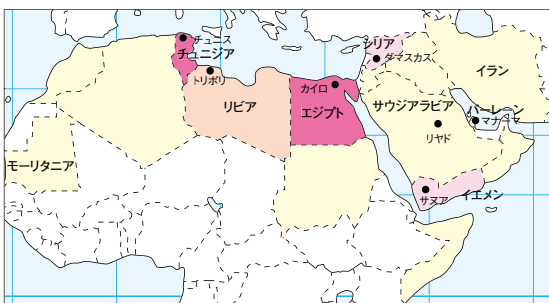
今、日本で、世界で、起こっていること

東北福祉大学特任教授 有田 和正

●アラブの春●

中東とよばれる地域がどこなのかについては、いろいろな考え方がある。広くとらえれば、東はイランから、西は北アフリカのモーリタニアまでの一帯になる。

この地域の国は「アラブ連盟」という機構をつくって団結を誇示していたが、1990年代以降は、各国の利益を優先させる傾向が強まり、対立が目立ってきていた。



反政府デモが起きた国

- 民主化が進行中の国
- 独裁政権が崩壊した国
- 内乱が続いている国
- 2011年1月以降反政府デモが起きた国

こうした動きの中、激しい反政府デモが起きているのがアラビア語を話す人々が住むアラブ地域である。

最初に大規模なデモが起きたのはチュニジアだった。2010年末、家族を養うため路上で野菜を売っていた貧しい若者が、販売許可を持っていなかったため警察の調べを受けた。警察は、道ばたで若者をなぐり、物売りに必要な道具を取りあげてしまった。これに抗議して若者は自分の体に火をつけ、自殺を図った。

この情報はインターネットで伝えられ、多くの人々の怒りに火をつけ、「ベンアリ大統領が悪い、大統領をやめろ」という声が高まった。チュニジアの各地で何万もの人々が連日デモを続け、警察は止めることができなくなった。ベンアリ大統領は、「このままでは大統領を続けられない」と考え、2011年1月14日に外国に亡命した。

チュニジアのできごとは、すぐに他の国にも広まった。エジプトでは若者の呼びかけで、首都カイロの中心「タハリール（解放）広場」に多くの人々が集まり、デモは国中に広まり続けた。ムバラク大統領は辞任を拒否し続けてきたが、2011年2月11日、全権をエジプト軍最高評議会に委譲した。

リビアやシリアなどは、現政権が武力でデモを止めようとして、多くの死者が出た。とくに、リビアに対しては多くの人々が殺されるのを止めるため、フランスやアメリカが中心になって2011年3月19日から数回にわたってリビア国内への空爆を行い、8月23日にカダフィ政権が崩壊、10月20日にカダフィ大佐は射殺され、ようやく激しいデモ、いや内戦は終わりを告げたのである。

なぜアラブ地域の国々に反政府デモが起こったのだろうか。それも突然に！

その大きな理由は、国のトップ（この場合は大統領）が長い間、国民の意見をよく聞かないで、自分の思うようにお金や権力を独り占めにしたからである。これが独裁政権である。

チュニジアのベンアリ大統領は23年、エジプトのムバラク大統領は30年、大統領を続けてきた。リビアの最高指導者カダフィ大佐は42年も国のトップに座り、自分ひとりの考えで国旗をイスラ

ム教の聖なる色、緑一色の旗に変えたりするなど、都合のいいように政治を行ってきた。これら3人の指導者は、元軍人で軍隊を味方につけて権力を守った。サウジアラビアやバーレーン、オマーンなどは、国王や首長といった最高権力者の地位を限られた人たちの一族で独占し続けている。

自由で民主的な選挙を行って国のことを決めるしくみをつくれれば、権力者の独り占めはできなくなる。だから自分に都合のいい制度にして、民主的にならないようにしてきた。

世界の多くの国々は「こんなことをして国民をいじめてはいけない」という意見で一致して、長期独裁政権に対して批判をしている。

今回のアラブの民衆の動きは、こうした権力者に対する「若者の怒り」から始まった。

しかし、シリアはまだ大統領が民衆への武力弾圧を続けており、どうなるのか予断を許さない。デモが下火になったサウジアラビアやバーレーン、イエメンなどもいつ再発するかわからない。今後のニュースに注目しよう。

●タイ国の洪水●

年間を通して平均して雨が降る日本と違い、タイには雨季と乾季がある。雨季である7月の終わり頃に大量の雨がタイの北部に降ったことがきっかけで、過去50年で最悪といわれる洪水が起きた。

地形の起伏が険しく、川の流れる速い日本とは異なり、タイ中部からバンコクにかけてはなだらかな地形で、川の水はもともと緩やかに流れている。このため、大雨が降ると水が引かず、いったん水があふれ出したら引くまでに時間がかかる。

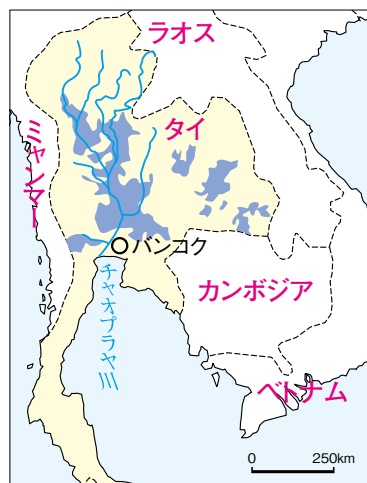
大河川のチャオプラヤ川の上流の水が、徐々に川下に向かってくるにしたがって、洪水の範囲が広がり、2011年10月17日頃には、首都バンコクの一部が冠水し、危険な状態になった。バンコク中心部の海拔は2mで、総延長10数kmの堤防で水害を防いでいるがこれがきっちり機能しなかったようだ。

人々は堤防を築いて洪水を防ごうとしているが、あまりの水の多さに苦心しているようである。生活物資の買いだめに走る人や、ゴムボートをタクシー代わりにして買い物客などを乗せる業者が出ているが、料金をつり上げる業者もいて、被災地に住む市民は他に交通手段がないので泣き寝入りになっているという。

一番困っているのは、タイの工場で生産がストップしていることだ。何しろタイ全国の3分の1の地域で洪水による被害が出ている。

日本の工場でも部品が届かないために生産を停止したり、部品をつくる工場も生産できないため、親工場の生産ができない状態である。日本の企業では、一部の従業員をタイから日本の工場へ移して生産しているところもある。

約2500人もいるタイの日本人学校は授業ができなくなり、80%は日本に一時帰国している。しかし、2011年11月16日づけの新聞では、「バンコクの洪水はヤマを越えた」となっている。日本人学校は11月21日から授業を再開した。(2011年11月現在)



10月14日時点の洪水被害地域